

家畜衛生だより

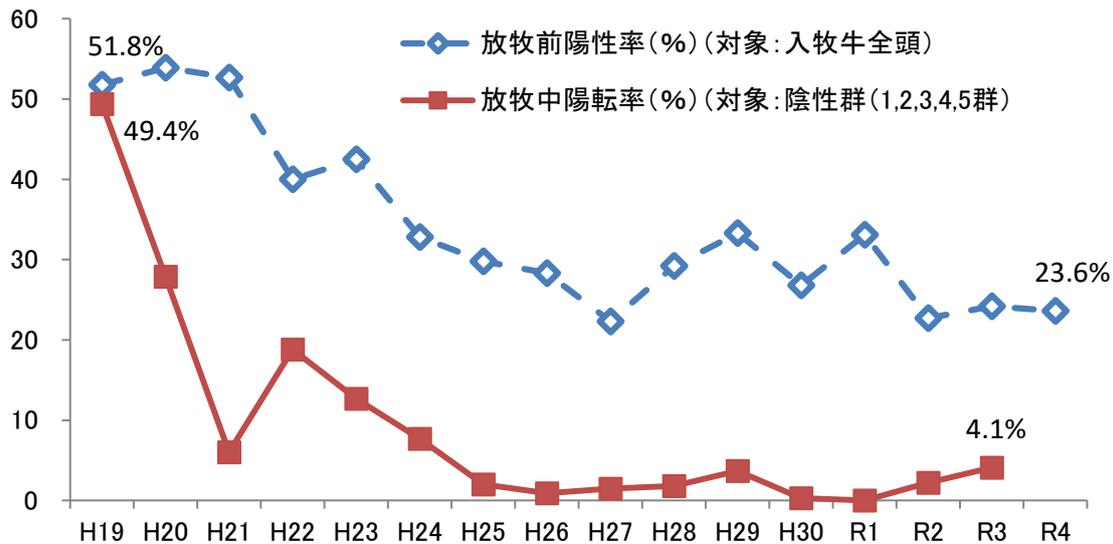
令和4年5月発行No.14
庄内家畜保健衛生所
庄内地区家畜畜産物衛生指導協会
TEL 0235(68)2151
FAX 0235(66)2466

令和4年度放牧事前検査の結果について

	牛伝染性リンパ腫※1	ピロプラズマ症	ヨネ病
陽性率	23.6% (41/174)	5.7% (10/176)	全頭陰性 (0/178) ※2
内 訳	乳牛 0% (0/22) 肉牛 36.9% (41/152) ※3	乳牛 0% (0/22) 肉牛 6.5% (10/154) ※4	乳牛 22頭 肉牛 156頭

※1：旧名称「牛白血病」 ※2：6か月齢未満除く ※3：子牛4頭検査せず ※4：子牛2頭検査せず

【放牧場における牛伝染性リンパ腫感染防止対策の効果】



平成20年以降、吸血昆虫対策や抗体陽性牛と陰性牛の分離放牧等の感染防止対策を継続していることで放牧中の感染率は低値で推移しており、昨年（令和3年）は放牧中陽転率が4.1%でした。引き続き放牧場における感染防止対策にご協力をお願いします。

【令和4年度の健康検査計画について】

実施月	6月	7月	8月	9月	10月
検査	臨床検査 ピロプラズマ症検査（採血） コクジウム（採便、子牛のみ）				牛伝染性 リンパ腫検査※3 （採血）

※3：陰性牛のみ検査。途中下牧する牛は随時採血。

◎放牧中の健康観察のため、今年度も検査へのご協力をお願いします。

農場における牛伝染性リンパ腫対策について

牛伝染性リンパ腫は年々発症頭数が増加し（平成11年169頭⇒令和3年4,375頭（農林水産省統計より））、生産現場での被害も増加傾向にあります。放牧場では感染防止対策により感染率を低く維持することができていますが、あわせて農場での対策を実施していくことが重要です。

農場における清浄化には、中長期的な視点に立って、以下の対策を計画的に講じていく必要があります。

- 1) 浸潤状況調査(抗体検査): 飼養する牛群にどの程度の浸潤しているのか把握する
- 2) 感染防止対策の実施: 吸血昆虫対策・初乳対策・人為的感染防止対策を行う

【吸血昆虫対策事例】



媒介昆虫粘着シート



畜舎開口部への防虫ネット設置



畜舎周辺への防虫ネット設置



抗体陽性牛と陰性牛の分離飼育

3) 定期的な浸潤状況調査、高リスク牛の判定(遺伝子検査等)

: 対策の効果判定や感染源となるリスクの高い牛の順位づけを行い、次の対策へつなげる

牛伝染性リンパ腫対策は、飼養形態や浸潤状況により農場毎に異なりますが、管内では感染予防対策を行ったことにより、陽転率ゼロを達成した農場もあります。

県では牛伝染性リンパ腫対策事業として、検査や清浄化への取り組みを支援しています。感染状況を把握するための抗体検査等に興味のある方は、家保までご相談ください。

庄内家畜保健衛生所: 0235-68-2151